



YES 通信



〒819-1116 糸島市前原中央2-2-22波多江ビル2F 電話 321-4119 2018年12月号

日本人選手大活躍の一年でしたね

毎年、年末になると「今年の漢字」というのが発表されます。ちなみに今年は「災」でした。地震や台風など大きな災害が重なったことが大きな要因です。私たちが住む糸島は幸いなことに全体的にはあまり大きな被害がありませんでしたが、一部の地域では大きな被害があり、今でも苦労なさっているみたいです。ただ、全国的にみると北海道から九州までいたるところで台風や地震の被害がありました。ちなみに一年中災害が続いた年も珍しいです。

この「今年の漢字」というのは一般公募方式で決まるそうなので、みなさんの中には「私もそう思っていたー」という方がいらっしゃるかもしれません。調べてみたら、「災」というのは2004年以来のことです。2004年も台風が10回も日本に上陸したそうです。来年は災害の少ない1年になってほしいものです。
2番は何だったと思いますか？1番目は結構覚えていたけど2番目はあんまり気に留めないものですが、私的にはこの2番が印象的でした。2番目は「平」だったんですね。「平」というと平成最後のというふうなのかな？私には私はいふかばなかつたのです。大谷翔平選手や紀平梨花選手、そして平昌オリンピックの「平」ということで「平」という漢字が2番目になったんですね。

確かに平昌オリンピックでのメダル数は過去最高でしたし、羽生選手の圧巻の演技は今でも記憶に残っていると思います。また、ネットのニュースでは毎日のように大谷選手のことを報道され、ついにイチロー選手以来となるメジャーの最優秀新人賞を受賞しました。そして最近では紀平梨花選手の大活躍で浅田真央ちゃんに代わるヒロインが誕生しました。そんなわけで今年は世界で活躍する新人選手が本場に目立った1年でした。

これ以外にもボクシングの井上選手等、世界が目にする選手がこのころ本場に目立ってきています。ちなみに夏のオリンピックのメダル数も毎年毎年増えてきていて2016年のリオオリンピックは過去最高のメダル数でした。
野球にしてもサッカーにしてもラグビーでも海外で活躍する選手も増えてきていて、私たちが学生のころには全く想像もできないことを最近の若者たちは次々と実現しているのです。30年前の野球少年の最高の夢はプロ野球選手になることでした。メジャーで活躍できるなんて思っている人はほとんどいなかったのではないのでしょうか？
しかし、今の小学生ならメジャーで活躍するといふ夢を持っている人はたくさんいるのだと思います。そういった「メジャーに行ける」「世界チャン

ピョンになれる」「金メダルが取れる」といふやれるー」といふ気持ちがあるからこそ夢が実現するのだと思います。

昔は、100メートル走で10秒切るのは夢のようなことでした。しかし、いったんカールルイスが10秒を切ったからは9秒台の選手がどんどん出てきています。「出来る」「やれる」といふ気持ちはとても大切なことだと考えています。
受験でも勉強でも同じで、自分はやればできると思っている生徒は、ほとんどチャレンジしていきま

す。しかし、自分には無理だと思っているとなかなかチャレンジしようという気持ちにはなれません。
そこで重要なのが周りの人のかかり方だと考えています。よく、「このままじゃ〇〇高校には行けない」と本人に頑張らなさいと思いつつ、「や」といふ口で「あなたには〇〇高校は無理だね」と何気なく言ったりすることがあるかもしれませんが、長年、子供たちと接してきて子供達にはこの「行けんよ」とか「無理だね」といふところだけが頭に残っていて本来伝えたい「頑張らなさい」といふ気持ちが全く伝わっていません。
せいかく言葉をかけるなら「これが出来るやうになったら〇〇高校に行けるよ」のように前向きな言葉をかけた方がいいです。以前、美穂ちゃんという生徒がいました。担当の先生が「筑前に行ける」と繰り返して言っていたら本場に筑前受験すると言いつつ出しました。言葉って大事ですよな。

やる気相談室

主体性

自分のやりたいことを積極的にやりますか？

みなさんは「求める人材像」という言葉を聞いたことがありますか？

この「求める人材像」は、上場企業ならば必ず作っているもので、採用する際に当社ではこのような人材を求めていますと言ったものなのです。

採用される側からすればとても重要な情報で、それに合致しないならば、その会社の求人に応募しても全くの無駄になってしまう。それくらい重要な「求める人材像」なのですが、その中に出てくる言葉の中で一番多く出てくる言葉はみなさんご存知でしょうか？ある意味この言葉は一番企業が求めている資質なのではないかと思えます。その言葉は「主体性」なのです。もし、みなさんが上司だとして「主体性」の無い部下が入ってきたらいかがでしょう

か？逆にしても「主体性」のある部下が入ってきたらどうでしょうか？将来大きな違いが出てくると思いませんか？

それだけ重要な「主体性」なのですが、2020年からの受験改革でも一番のキーワードが「主体性」なのではないかと思えます。この主体性という今までの受験制度では全く判断の出来なかったものを、どのような仕組みを使って見出していくのかというのが、大学側の改革の趣旨であり、「主体性」のある人材に育てていくことが、家庭や学校の役割となると言っても過言ではないと思っております。

たびたびYES通信でも指示命令の子育てから、質問の子育てにしまじょうということを書いていますが、指示命令ばかりで育ったお子様ほど、自分から進んで何かをやるといふ傾向が低いと感じています。フィンランドは教育の先進国といわれていますが、フィンランドでの子育てや教育はまさに「質問」の子育てや教育だったとフィンランド教育に詳しい方が話しております

れました。

指示命令に従えば、何も考えずに実行すればいいので、ある意味その時だけは結果はすぐに得られます。しかし、私たち大人が本当に子供たちに求めているのは、自分で考えて行動出来るように育ててもらいたいのです。

主体性を育むあとひとつの鍵が、何か好きなことに没頭することだと思います。好きなことに熱中すると自然と創意工夫が生まれてきます。小さいうちに何か熱中出来るものに出会えるといいですね！

それをお子様と一緒に探せると素晴らしいと思います。私の子育ての反省点は、自分の好きなものを好きになってくれるだろうと釣りに連れていったり、虫取りに連れて行ったりしたのですが、与えてばかりで本人の意思を尊重していなかったことです。個性が違うので、もっと何をやりたいのかじっくり観察したり、質問したりすればよかったですと反省しています。是非、お子様の好きなことをみつけてください。

小杉樹彦 著

AO 入試の赤本

書籍紹介

年々推薦入試やAO入試など、一般の受験以外での合格者がYESでもとても増えてきました。今年の高校生はもう5名の進路が決定しました。推薦入試やAO入試を前提に考えていくことは受験改革前であってもとても重要なことです。そのような中でなぜこの本を紹介したのかというと、今はこのAO入試が何か特別なものようにとらえられがちなのですが、入試改革後の入試はほとんどが現在のAO入試のようになっていくからです。

しかも、AO入試は個人の総合力を試されるので、受験生になってから頑張ってもとても間に合うものではありません。また、この本は就職活動でも役に立つ「自己分析」についても詳しく書いてあるので、早めに読んでおくのととてもためになる本です。その中でもみなさんに知って欲しいと思ったことは、「自分は探すものではなく「つくる」ものである」というところでした。自分探すということで自分が何をしたいかわからないと言っている生徒がありますが、そんな生徒にこそ読んで欲しいと思います。いくら探しても本当の自分なんて見つかるはずはなく、それよりも自分をどのように作っていくのか考えたほうが良いと私も思いました。自己分析を通じて自分づくりをしていくことはとても大切なことだと思います。

